（2021年６月11日付・下野新聞１面）

NIEもっけワークシート 下野新聞 ㊾

小学校中・高学年向け

年組

本県イチゴ 連続日本一へ

出荷量と額、福岡上回る

21年産ＪＡ速報値

２０２１年産（20年秋～21年春）イチゴの出荷量と販売額で、本県の全国１位が確実視されることが10日、分かった。県産の９割を占めるＪＡ全農とちぎ出荷分の５月末速報値で、本県に次ぐ産地・福岡県の速報値を大幅に超えたため。天候不順で落ち込んだ前年度から一転、出荷量の回復が販売額も押し上げた。出荷量は33年連続、販売額は27年連続で首位を維持する見通しとなった。名称決定後初の出荷シーズンを迎えた「とちあいか」は、販売額10億円の大台を突破した。（須藤健人）

福岡県のＪＡ全農ふくれん園芸部によると、５月末時点の出荷量は２％増の１万５８０㌧、販売額は１％増の１５８億２４００万円だった。

本県の出荷量は福岡県の約１・９倍、販売額は約１・５倍となった。

統計に含まれない参考値だが、新たな普及品種「とちあいか」は、出荷量が約７・０倍の８８３㌧に伸びた。

販売額は、約６・５倍で10億１４００万円だった。高い収量を背景に栽培面積は６倍超、栽培戸数は３倍超に伸びたことが要因とみられる。

県は22年産についても、さまざまな品種を取りそろえる強みを生かし、生産や販売を振興する方針。

「とちあいか」好発進

県農政部が同日の県議会農林環境常任委員会で、速報値を公表した。

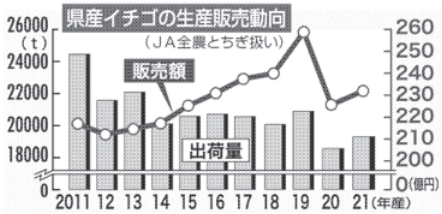
とちおとめとスカイベリーを合わせた出荷量は、前年比６％増の１万９６８６㌧、販売額は２％増の２３０億７８００万円だった。１月以降、天候が比較的安定したため、出荷量、販売額がいずれも前年より回復した。

とちおとめは、出荷量が５％増え１万８３７２㌧、販売額は前年とほぼ同じ２１５億３１００万円だった。

スカイベリーは、出荷量が33％増の１３１４㌧、販売額が25％増の15億４６００万円に上った。

１㌔当たりの販売単価は、とちおとめが４％減の１１７２円、スカイベリーが５％減の１１７７円だった。全国的にイチゴの流通量が多かったため値を下げた。

さらにスカイベリーは、コロナ禍による贈答用需要の落ち込みも影響したという。



2021年産イチゴの生産販売動向

	とちおとめ	スカイベリー
栽培面積（ha）	406（▲４）	27.9（13）
栽培戸数（戸）	1.573（▲２）	208（▲１）
出荷量（t）	18.372（５）	1.314（33）
単価（円/kg）	1.172（▲４）	1.177（▲５）

※カッコ内は前年同期比増減率％、▲はマイナス

設　問

【１】栃木県のイチゴの出荷量は何年連続で日本一となる見通しですか。

【２】記事に出てくるイチゴの品種名を三つ書きましょう。

【３】2021年産とちおとめとスカイベリーを合わせた販売額は、いくらですか。

【４】記事から分かることをまとめた次のア～ウの文を読み、正しいものには○、まちがっているものには×、記事からは分からないものには△を書きましょう。

ア　栃木県は2021年産イチゴの出荷量・販売額ともに全国１位が確実視されている。（　　）

イ　県産イチゴの生産販売動向のグラフを見ると、イチゴの販売額は2012年から毎年増加している。（　　）

ウ　新品種「とちあいか」という名には、全国のみなさんに愛されるとちぎの果実になってもらいたいという願いが込められている。（　　）

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会社会部会・久我逸就姿川第一小教諭